

## 2017 熊野古道・小辺路

写真・文 後藤

期 日 2017.05.22(月)～25(木)

参加者 後藤、高岡、渡邊典、田内、土屋弥、山口、加藤、峰田、合谷、鈴木新、鈴木綾、穂山、星、土屋公、土屋つ＝15名

1日目(5月22日)月・晴

コース 清水町発4:00—高野山・金剛三昧院発11:52—ろくろ峠—薄峠12:40—御殿川・赤い鉄橋13:23—大滝集落(公衆トイレあり)13:48—R371—水ヶ峯入口14:42—林道タイノ原線—かわらび荘ショートカット道16:45—大股・かわらび荘17:10(泊)

距離 16.8km

標高差 下り 高野山約815m～御殿川約620m＝約195m

上り 御殿川約620m～水ヶ峰分岐約1100m＝約480m

下り 水ヶ峰分岐約1100m～大股橋約650m＝約450m

宿 「かわらび荘」—泊二食・弁当付き＝8700—、運転手＝8000—

金剛三昧院でお勤め後、出発。天気は良い。

金剛三昧院は昨年宿泊した。北條政子が建立した国宝がある。見学は有料だが、トイレは無料で貸してくれた。残り石楠花がチラホラ。

薄峠まで林道みたいな所を歩く。峠付近は、高野槇が沢山栽培されていた。

下って、御殿川近くでは、ご夫婦が販売する槇を切っていた。一本＝1000—で卸しているそうだ。槇はみな巨木だった。高野槇は成長遅い。槇畑は先祖代々、続いているという。



金剛三昧院



高野槇栽培



大滝集落



水ヶ峯入口

御殿川の赤い橋を渡り大滝集落に入る。公衆トイレがあった。龍神スカイラインまで上りが続く。更に水ヶ峯も厳しい上り。小辺路は登山だった。しかも、先は長いタイノ原線林道の下り。下り切ると、今日の宿「かわらび荘」のショートカット道入り口。ただ、案内板が全くなく分かり難かった。まともに林道を下ると長い。

かわらび荘着。風呂は少し上の、近くの温泉に入った。民宿宿泊割引で400ー。

なかなかイイ温泉だった。

かわらび荘は、話好きな大ババ様が主役。昔、よく遠州方面に行ったという。80歳を越えているが、極めて元気が良かった。夕餉は、猪鍋だったが、イマイチ。1日目は、無事終わった。



イノシシ鍋



かわらび荘

2日目（5月23日）火・快晴

コース かわらび荘発6：55－大股橋登山口7：15－伯母子岳（おぼこだけ）9：53～10：13－伯母子峠－上西家跡（昼食）11：19～12：10－伯母子岳登山口14：26－五百瀬（いもせ）「政所」14：45（泊）

距離 15.9m

標高差 上り 大股橋約650m～伯母子岳1344m＝約694m

下り 伯母子岳1344m～舟渡橋約350m＝約994m

宿 「政所」「山本屋」一泊二食・弁当付き＝8000－、運転手＝8000－

かわらび荘から出発。今日も天気は良好。大股橋から伯母子岳に向かう。

下部は急登。やがて頂と峠分岐。頂を目指す。伯母子岳は快晴で素晴らしい展望だった。

ただ、周りの山は分からない。

ヤマツツジが満開。外国の若い男女がやって来た。聞けば、男子はスペイン、

女子はスイスの方だった。二人とは、翌日も前後しながら歩いた。一緒に記念写真を撮って峠に下山。途中、シロヤシオが咲いていた。やや小ぶり。

峠には立派な小屋とトイレがあった。



伯母子岳（日本二百名山）



外人さんも一緒



新緑が素晴らしい



外人さん

峠から長い下り。上西家跡で昼食。ホウの花が満開。快晴で湿気がなく快適。  
皆の元気な声がこだまする。ここから長いトラバースで伯母子岳登山口に下る。  
左は急峻な崖で要注意。小辺路は、何処も厳しい崖が続く。  
午後の下りで、また、外人さんに会った。男性はイギリス、女性はインド系だがフランス国籍。  
男性は、長いヒゲだった。女性は日本語が上手かった。高野山まで行くと言っていた。  
大汗をかいて伯母子岳登山口着。民宿「政所」までは近い。  
今回は人数が15名と多かったので、宿泊は「山本屋」と分かれた。「山本屋」ご主人は9名の  
村会議長さんだった。その日も、陳情に出かけたそう。夕方帰って来てすぐ田んぼの見回りに  
出かけた。働き者でした。



政所のババさま



山本屋夕食



可愛い烏骨鶏（うこっけい）

私は「山本屋」でしたが、夕食・朝食とも良かった。「政所」も良かったそうです。ちなみに「政所」は、県指定有形文化財で、素晴らしかったそうです。

3日目（5月24日）水・晴

コース 「政所」発6：53－舟渡橋7：02－三浦峠8：56－三浦峠登山口11：29－昴の里・ホテル「昴」14：12（泊）

距離 19.2km

標高差 上り 舟渡橋約350m～三浦峠約1080m＝約730m

下り 三浦峠約1080m～西中バス停約200m＝約880m

西中バス停約200m～昴の里・吊橋約150m＝約50m

宿 ホテル「昴」一泊一食（夕食は、オプション・朝食弁当・昼食弁当なし）＝7560－、運転手6480－

昨夜は、分宿だったが、大いに盛り上がった。夕食を終えてからも、女子部屋で飲んだ。山本屋は、庭に烏骨鶏（うこっけい）を数羽飼っていた。羽根は白、鶏冠・爪など黒で、一見、「鶏のパンダ」みたいで可愛かった。

ただ、早朝四時ころからコケッコーと鳴き続け、参ってしまった。

朝食時、議長さんが「煩かったでしょう」と恐縮しきり。朝食は、サイコーに良く美味しかった。庭で議長・奥さんを交えて記念撮影。

「政所」に戻る。バス運転手も来たが、議長も送ってくれた。

眼下の川底が高く話題。山が急峻で崩壊が激しく、土砂で川底が上がり、洪水が出易くなる。道路の土砂崩れは頻繁で、ひとたび崩れるとライフラインは止まり、電気も一週間停電するそうだ。



山本屋で記念撮影

「政所」に戻って、ババさまに挨拶し出発。天気は良い。十津川村の巡回バスが来た。運転手さんはフレンドリー。わざわざ停車し、登山口を教えてくれた。

五百瀬・舟渡橋から登山開始。途中、「三十丁の水」が湧いていた。

三浦峠下は、崩れやすい山で一箇所怖い所があった。

しかし、崖に「キンラン」が一輪咲いていた。



ニコニコ運転手



舟渡橋



金欄

上り切れば三浦峠。立派な東屋・トイレがあった。  
このトイレ、後で知ったが、西中集落の垣野さんが作ったそうだ。  
大休止後、下山。長い長いトラバース道が続く。下り切って昼食時間。何処で食べるか  
物色していたら、立派な家があり、挨拶はしたが不在なので、庭で食べさせて貰った。  
昼食が進んでいると、前方上からオジサンがブラブラやって来た。

聞けば、この家の主人のお父さんで、前述の三浦峠のトイレを作った方だった。  
お名前は、垣野さん。67歳で私より若かった。  
垣野さんは大工。この息子宅も作ったそうだ。熊野古道の手入れも、定期的に行っているそうだ。  
垣野さんは、とてもフレンドリーな方で話が弾んだ。旅に出て、優しくされると嬉しい。  
民宿の弁当は、まあまあだった。近くの河原では、昨日の若い外人さんも昼食。女性は上着・ズボン脱いで、日光浴だった。



山本屋のお弁当



垣野さん



草刈りのオジサン



椎平バス停

午後は、約2時間の車道歩き。長く辛い道だった。途中、地元の草刈りのオジサンと交流。あたたかいオジサンだった。やがて、昴の里。  
今日の宿、ホテル「昴」上を通過。この先が、待望の「果無（はてなし）」集落。  
まだ、時間が早かった。明日は帰静する。時間を稼ぐため、果無集落まで上ろうと思った。ところが、道が狭くバスが入れないという。今日の迎えだけなら、「昴」でやってくれるという。しかし明日、果無まで送って貰わないと、今日先行する意味がない。  
明日、送ってくれる車が無かった。タクシーは予約でいっぱい。宿も朝は多忙で、車は貸してくれなかった。  
結局、今日は、明日果無に行けない方のみ上った。付き添いはKがやってくれた。  
果無集落は、長い吊橋で対岸に渡った。揺れて怖い吊橋だった。



長い吊橋

「昴」の温泉は良かった。夕食は、各自、メニューを注文する。  
14名が、1950-の「十津川御前」を注文したが、最悪の料理だった。ほか、注文は、カツとじ丼、親子丼だった。  
夜半、予報通り雨が降り出した。

4日目（5月25日）木・雨

コース 起床4：00－「昴」発5：00－林道入り口－果無入口－果無集落5：33－観音堂6：53－果無峠7：39－シャクナゲ群落－八木尾バス停10：26－R168－中辺路－熊野本宮大社12：15～34－長泉20：00

距離 15 km

標高差 上り 吊橋約150m～果無峠1114m＝約964m

下り 果無峠1114m～八木尾バス停約83m＝約1031m

上り 熊野神宮手前の中辺路＝やや上りあり

今日は帰静するので、起床は4：00。朝食は弁当。雨はさほど降っていなかった。ただ、吊橋が濡れて危険なので、少し下流の橋を渡り、林道から登山口着。

果無集落はすぐ着いた。早朝なので静か。

昨日の情報では、何人か住んでいるようだ。水飲場に、一輪のシャクヤクが飾ってあった。



果無集落



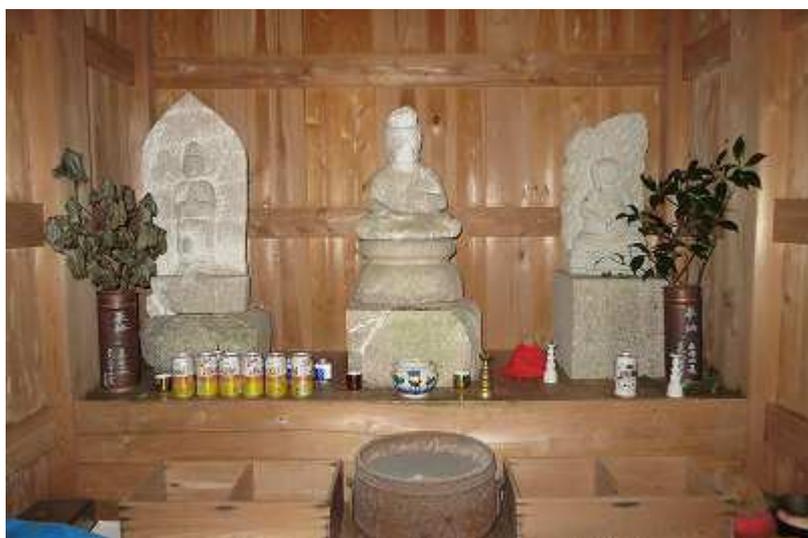
水飲場のシャクヤク

30分上った所に水田跡があった。昔は、こんな山中で米を作ったのだろうか。看板には、水は天水のみと記してあった。1時間ちょっとで観音堂着。美味しい水が流れていた。

皆さん、ここで朝食。腹を満たす。お堂の裏には、既に咲き終えたシャクナゲの大木があった。種類は不明だが、花が小さかった。



観音堂



中の仏様

扉を開けると、石仏が三体鎮座していた。合掌して出発。  
峠下の急坂を上って行くと、上から外人さんが駆け下りて来た。突然の出来事で何事かと思った。  
30歳くらいの男子で、雨の中、Tシャツ・半ズボン・傘・帽子なしで驚いた。  
一瞬だったが、挨拶だけして分かれた。  
雨の果無峠だった。上りはこれで終了。後は下るだけ。下って行くと、ピンクの花が落ちていた。  
シャクナゲだった。一帯はシャクナゲの群落だった。  
やや盛りは過ぎたが、まだまだ見れた。パンフレットに「花折茶屋跡」があるが名残りだろうか。



シャクナゲ



スペインの方

群落の先で、単独のスペイン人に会った。

彼はテント泊で午後の天気、明日の天気を気にしていた。結果的に翌日から好天が続き良かった。3ヶ月の休暇で来日したという。44歳。私は70歳、一緒だったGさんが60歳という、あなた方は、年齢が逆に見えると言って笑わせた。

七色集落分岐を経て、長い下りで八木尾集落着。登山口の民家の車庫を借りて大休憩。皆さん、続々と降りて来る。この下が八木尾バス停。バス班が降りて迎えてくれた。

大きな河原の熊野川に沿って熊野本宮に向かう。途中、道の駅で昼食と飲み物を購入した。

三軒茶屋跡から中辺路を辿り最後の歩き。ここも外人さんが多かった。

カップルの二人は、32・34歳のメキシコ人。3週間のハネムーンとのこと。小柄な可愛い女性だった。下れば熊野本宮大社。お参りを済ませ、長い旅は終わった。



八木尾バス停



熊野川



ハネムーンのメキシコの方



八咫鳥（やたがらす）説明板



熊野本宮



皆さん、お疲れ様でした。

ご苦労様でした。

次回予定

2017. 10. 30 (月) ~ 11月2日

熊野古道・中辺路を予定です。